

若者の団結が輝いた読者大会!!



第2号
2015年11月03日
責任者:高開照夫
現地実行委員会
編集・記録班



全国のまなぶの仲間のみなさん。こんにちは。地元徳島では、来年の全国交流集会で全国のたたく仲間のみなさんを、元気な若者の姿で迎えるべく取り組みをすすめています。



10月、徳島県協では読者大会を開催しました。学習と交流、企画段階から若者が議論し、当日も最後まで若者が集会を全てやり遂げました。会員の子どもも含め若者が多く参加し、これまでよりも活気があり、盛況のうちに集会を終えました。

読者大会では、三好市社協労組委員長から闘争報告という形での講演を受けました。

三好市社会福祉協議会では、組合を忌み嫌う当局が、社協労組の橋本委員長を狙い撃ちし、職場のパソコンメールの私的利用を理由として不当な処分を行いました。以前から当協議会では事務局長による不祥事やパワハラ行為が常態化するなど、問題の多い職場です。

不当労働行為は許さない!!

現在も会長自身が、権力を振りかざし、社会福祉協議会を私物化しているような言動を繰り返し、組合との交渉に応じない状況にあります。

職場のコンプライアンスを取り戻すとともに、組合潰しとも言える橋本委員長への不当処分撤回に向け

て、たたかいは県労委闘争に移ることになりました。

今後社協労組に連帯し、勝利するとともに、社協職場での組合の影響力の拡大と組織強化に向けてたたかいをすすめます。



各種集会に音楽活動を取り入れています



県協では、まなぶピースバンドを結成し、労働歌を中心に音楽活動をすすめています。



まなぶの活動を問わず、労組関係の各種集会でもまなぶの仲間が音楽活動を通して集会を盛り上げることはもちろん、労働者の一体感を生み、好評を得ています。



交流会では、集会の成功に向けての意見交換や、現地実行委員会に対し、貴重なご指導をいただき、若者が多く集う四国開催での全国

交流会では、集会の成功に向けての意見交換や、現地実行委員会に対し、貴重なご指導をいただき、若者が多く集う四国開催での全国

おいでなして徳島へ！ 県協連渉外担当と交流！

10月29日(木)、第21回県協連全国交流



交流会に対する期待をひしひしと感じ、全国の仲間思いに込めるため、改めて今後に向けて組織強化と仲間づくりに取り組んでいく意思統一の場となりました。

最後に、渉外担当3人の徳島の感想は、

- ① 会場の温泉は良い湯だった！
 - ② 徳島ラーメンはチャーシューなら豚バラ肉入りで、濃いダシがとってもおいしかったです！
- とのことでした。

ひかり たたかいの芽 中間の成長などのエピソードを紹介します。

亀の一步一步、磨けば光る原石、一步踏み出す

香川県協 高郵まなぶ友の会 須藤 行彦

・7月28日の第一学習会に「亀野あゆみ」さんが、初めて参加しました。

亀野さんの「その先にある光」が『月刊まなぶ』5月号に掲載されました。実は彼女は、職場でおかしいと思ったことを口に出して発言するようになったのですが、会社の上司に、「顔を冷やしてこい、どこへいっても通用せんぞ！」などと言われて、気持ちが揺れているとのことでした。第一学習会でその問題を出してもらい少し討論しました。会社を辞めることも考えているとのことでしたが、もう少し頑張ってみる事になりました。



彼女は最近、私たちが『おはよう』ニュースを早朝配布している時、いつもそばに来て局の玄関口の階段に座って勤務前50分ぐらい、いろいろ話をしてから勤務についています。

・【9月15日早朝の会話より】

亀野「自分が思ったことを言うと、いつも上司とぶつかってしまい、絶対嫌われていると思う。」

須藤「このまえ徳島へ加藤さん3時間ぐらい話を聞いた32歳の女性が、特定局という狭い人間関係のなかで、私たちの組合に加入したんで…自ら手をあげるには、かなり勇気がいると思うよ…」

亀野「すごいな～私も手をあげてよかったと思っている～」と言って片手をあげ、にこっと笑いました。ほんとうに嬉しかったです。あ～これが運動の喜びなんだ～と、目が熱くなりました。亀野さんは、10月号から有料読者になりました。

わかishi 若者の決意 集会参加に対しての若者の決意を紹介します。

自身の運動の形を発見！音楽活動で仲間づくり

徳島県協 三好市職友の会 笠井 大志

私は現在、友の会の先輩方と「まなぶピースバンド」で音楽活動をしています。始めたきっかけは友の会の先輩からの声かけでした。学生時代に楽器経験の話をきっかけに音楽活動に参加するようになりました。



一昨年の香川で開催した全国交流集会で、合唱班として参加させてもらった時、音楽活動の再構築に取り組む先輩の姿を見て、自分も一緒にこの活動を拡げ伝えていきたいと思うようになりました。

これまで、集会の前に集まって、数時間の練習をして本番に臨んでいる程度でしたが、最近は労働組合の定期大会や団結集会で、その歌が生まれた歴史や時代背景を語る先輩の隣でともに活動しています。

労働歌には、その歌が誕生した歴史や時代背景、現場で働く労働者の過酷な労働実態や怒りが強い思いが込められていると思います。音楽活動を拡げることは、友の会運動の「3つにまなぶ」のひとつである「仲間まなぶ」ことにつながります。

来年、徳島県で開催される全国交流集会では、音楽活動を通じた仲間づくりの成果として、若い仲間と一緒に参加しともにまなび合いたいと思っています。